

江の川河口の対岸 渡津と本町を繋ぐ

ごうがわ 江川橋



備後・安芸・石見の水を集め日本海にそそぐ中国太郎の異名をもつ江の川。国道 18（現 9 号）号が開通したときは、2 艘の渡し船で対岸に渡っていました。明治 37（1904）年、ようやく架けられた初代船橋も翌年の洪水で流失、2 代目となる板橋、大正 6 年の鉄柱板橋、そして昭和 19 年に木造橋と幾度も架け替えられましたが、その都度洪水で流失しました。昭和 33（1958）年に 6 代目となる鉄筋コンクリート橋の^{かみごうがわぼし}上江川橋がようやく完成しました。被災するたびに橋の形を変え、地元で愛された上江川橋ですが、新江川橋の完成で、平成 5（1993）年に役目を終え撤去されました。

一方、大正 9（1920）年、山陰本線の江津延伸に伴い^{ごうがわ}郷川橋梁が架けられました。鉄骨造ワーレントラス橋で橋脚はコンクリートです。そもそも江の川という名称は昭和 41（1966）年に一級河川に指定されてからの名前であり、それまではそれぞれの地域で^{えのかわ}可愛川、^{ごうがわ}郷川、^{ごうがわ}江川などと呼ばれていました。江の川が一級河川になる前の架橋である郷川橋梁は、地元で一番なじんだ呼び名だったかもしれません。

昭和 22（1947）年、災害復旧工事として江津駅前通りと^{わたづ}渡津を結ぶ江川橋が、郷川橋梁の下流に架けられました。3 m 余りの水深と時に襲う洪水に阻まれて、3 年の日数と当初の倍額となる予算を要して完成しました。488m は当時関西一の長さで、幅は 6.6 m、水面からの高さ 8 m、橋脚はコンクリート、ゲルバー式鋼板を使用し、半永久的な橋といわれ、竣工式当日は祝賀行事でにぎわいました。

河口から 3 番目の 4 径間連続ダブルデッキートラス橋が平成 5（1993）年に完成した^{しんごうがわぼし}新江川橋です。上側は国道 9 号の江津バイパスで、下側は市道新江川橋線が通っています。市道には歩道があり徒歩でも渡ることができます。江津市は窯業が盛んであることから、橋名板もそれに因んで石見焼の「はんど」が使用されており、その横の「大きな窯場の強い仕事には、石見人を見る思いがします」との柳宗悦の言葉は、江の川河口で洪水にあいながらも立ってきた橋梁たちと重なる部分があるように思います。

■位置図



^{ごうがわ}郷川橋梁（1920 完成）
上路式 7 連 PG + 下路式 5 連曲弦ワーレントラス + 上路式 1 連槽状桁、長さは 488m、幅は 6m



^{ごうがわぼし}江川橋（1950 完成）
上路式 RC（鉄筋コンクリート）桁 4 径間 + PG（プレートガーダー）桁 12 径間



^{しんごうがわぼし}新江川橋（1993 年完成）
4 径間連続ダブルデッキートラス橋、長さ 378.3 m。橋の名称版は石見焼の「はんど」が、柳宗悦の言葉がそえである。



江の川河口に架かる 3 本の橋梁
河口から江川橋、郷川橋梁、新江川橋と並ぶ。